

どっこい生きてます!

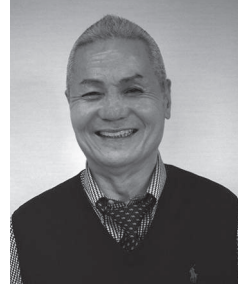


「潮騒で亡くなった仲間を天涯孤独な無縁仏にしたくない。なんとか潮騒の合祀墓をつくりたい」。栗原センター長の熱い思いが結実し、支援者の尽力で鹿嶋山地蔵院の永代供養墓の一角が確保できる見通しとなりました。これを受けお盆期間中に関係者約50人が参列して、潮騒で仮安置していた仲間8人の合同慰霊祭が営まれました。潮騒アディクションビレッジ構想の着地点整備が進みます。

2018

8

私達の原点は 自助グループにある

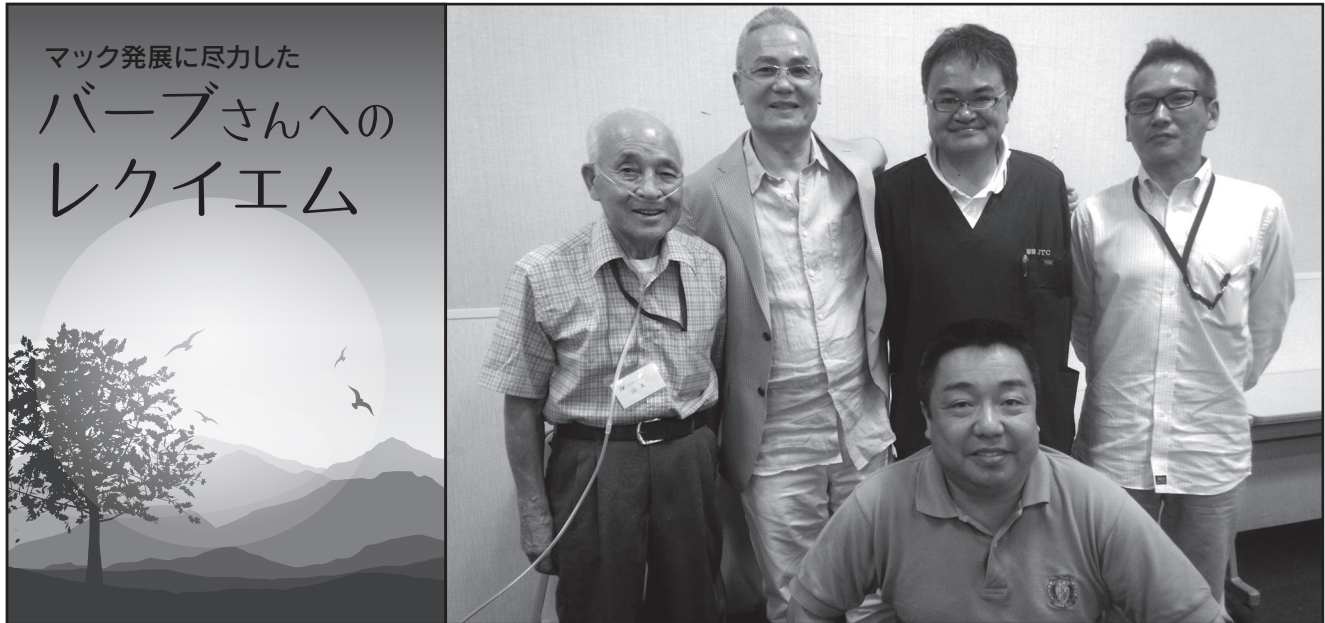


酷暑の夏も暦の上では峠を越しました。過ごしやすい気候の到来を願うばかりです。さて前号で既報したように、潮騒JTCにも学校現場から薬物乱用防止教室での講話依頼が寄せられるようになりました。生徒の皆さんにも話したのですが、薬物依存症の難しさは私のように70歳半ばになっても、ふとしたきっかけで「クスリを使いたい!」という欲求が湧いてくることにあります。かつて私が常用した覚醒剤について言えば、脳の快楽中枢にインプットされた「使いたい」という強烈な精神依存がその本質であるために、むしろやめにくいのが特徴です。不適切かもしれませんが、ヘロインのようにのたうち回る苦しみのような禁断症状があるなら、まだやめやすいと言えます。私は長年依存していたので幻覚幻聴もひどく、ダルクで回復するまでは何度もフラッシュバックに苦しみました。でも回復の歩みも15年、「もう大丈夫だろう」と高を括った矢先、私は改めて依存症の正体、その怖さを自覚させられました。

私は一人でも多くの仲間を助けたいとの思いから、積極的に受刑者の身元引受人になっています。このため潮騒には毎月、刑務所を出所した多くの仲間が漂着します。周知のように各地の刑務所は、再犯率の高さから薬物事犯であふれ返っているのが現状です。このため薬物事犯は、よほど自分がしっかりしていない限り刑務所が格好の情報交換の場となってしまいます。受刑者同士が「出所したら、今度こそ(捕まらないように)うまくやろうぜ!」と、新たな密売ルートの確保に繋がってしまう逆説があります。薬物から隔絶した世界なので一応は反省を口にしても、肝心の依存症の根本治療がなされていないので、自由の身となる塀の外に出れば薬物の「誘惑の罠」を自力では断ち切れず、そのまま密売人の元に走るケースも珍しくありません。薬物依存症の本当の怖さは完治がなく、自分では「もう大丈夫」「治った」と“錯覚”してしまう部分にあります。このように薬物依存症の回復とは、自由に使える社会環境にあって生涯に渡って付き合っていくことを意味します。

先日、私がハッとさせられた体験を記します。刑務所を出所して潮騒に到着したばかりの新人(年配者)と面談中に、昔付き合いのあった大物密売人の話題が出たのです。すっかり私の頭の中からは消え去っていた人物だったのですが、その名前を聞いたとたん、私の身体に「使いたい!」という強烈な欲求が閃光のように走り、一瞬でしたが回復者としての自分を見失いそうになったのです。「これだけの事をやっても、15年のクリーンなんて一瞬で吹き飛んでしまうんだ!」。そう思われて、とてもそら恐ろしくなりました。このことがあって、私はできるだけ時間を作って夜の自助グループミーティングに参加しています。私達の原点は、やはりそこにあります。今号で潮騒スタッフのトムが、マック発展に貢献した偉大な仲間バーブさんを追悼(3ページに記事)していますが、亡くなる直前まで自助グループのミーティングに足を運び続けた彼の姿は、私達にとって何よりのクスリです。バーブさん、どうか安らかにお眠りください。

(センター長 栗原 豊)



▲ 潮騒の仲間との集合写真に収まる在りし日のバーブさん(後列左端、前列が潮騒スタッフのトム)

日本にAAをつくったミニー神父とも交流のあった
オールドタイマーの山本晋一さん(元みのわマック施設
長、アノニマス名: バーブ)が亡くなりました。ジャパン
マックの中心的存在で、各地のマックの開設にも尽
力されました。謹んでご冥福をお祈りします。以下は、
付き合いのあったトムさんの追悼文です。

プログラムの実践を言葉だけではなく 行動で示してくれた

7月21日の夕方、先行く仲間のケイイチロウさんから
「バーブが亡くなった!」との電話が入りました。予測して
いたとはいえショックでした。亡くなる数週間前に電話で
愚痴ばかり言っていたら、厳しく叱られたこと。7月上旬に
ミーティング会場で会ったことを思い出していました。

10年前私がみのわマックにつながったときは依存症
そのもので、幼い自分は周りについて行けなくてピー
ピー泣いていました。自分の担当スタッフに叱られると
何も言えなくなり、バーブによく話を聞いてもらっていま
した。拙いながらもミーティングで話を下ろすと、バーブ
の経験から気づきとなることをたくさん教えられました。
プログラムの実践を言葉だけではなく、行動で示してく
れた仲間でした。とてつもなく優しく、でも厳しくて、彼
の口から叱られると不思議と「行動しなくちゃ」という気
持ちにさせてくれる魅力ある人でした。

当時自分は、彼と同じAAの江戸川グループに属して
いて仕事で忙しいバーブがビジネスミーティングに出ら
れないとき、かわらばんとボックス916を預かってみの
わで手渡しし、彼から少し多めに駄賃をもらって自分は
喜んでいました。自分の両親と同年ということも彼に

惹かれた点かもしれません。病気の深い私は1年ほどで
再発し、周囲に迷惑をかけながら8年ほど前に栗原セン
ター長の率いる潮騒にたどり着いたのです。潮騒では
施設の拡大と共にいろいろな経験をさせていただき、外
部の自助会につながるなかでバーブが立ち上げた守谷
グループに行くことができるようになりました。久々に再
会したときは自分が己で気づけるようになっていたこと
を褒めてくれました。とてもうれしかった。

守谷グループに通うようになって、施設での自分の行
き詰まりを下ろすと、昔と同じように自身の話で返してく
れました。そういえば亡くなったリュージがそのやりとり
を脇で見ていて、「おまえは何者?」と尋ねられたのを思
い出します。亡くなる週の火曜日、彼はミーティングに参
加していたそうです。つらそうだったと仲間の話で推察
されるのだけれど、彼は一緒に行動してくれる仲間に感
謝の言葉を伝えていたそうです。その話を聞いたとき、と
てもかっこいいと思いました。どんなときでも己を捨てる
覚悟をそこに見た思いです。

彼と過ごした時間は自分の宝物です。今、施設の仲間
とプログラムをするとき、バーブと会話している自分に気
づきます。仲間と過ごす時間が自分にとってとても楽し
い時間です。依存症だからつい事務を忘れて仲間という
自分を少し戒めながら、今日一日の感謝時には絞り出す
ようにもしていこうと決心しています。神の意志に従って
いれば平安でいられる、そのことに少しだけ気づいた自
分は、この先どんな世界が訪れるのかワクワクしていま
す。私もあちらの世界に行ったとき、この世での気づきを
分かち合えたら最高だと思います。バーブ、本当にありが
とうございました。(とむ)



お盆に地元寺で仲間8人を合同慰霊

潮騒専用墓の確保に目途が付き追悼法要

潮騒 JTC で遺骨を仮安置していた亡き仲間 8 人の合同慰霊法要が送り盆の 8 月 16 日、鹿嶋市志崎の鹿嶋山地蔵院本堂で厳かに執り行われ、入寮者や施設職員、支援者ら約 50 人が参列して 8 人の御霊を追悼供養しました。今回、合同の慰霊祭で鎮魂の祈りを捧げたのは、▽麻生信雄（アノニマス名：ノブ）享年 63 歳 ▽村田慶治（ヨシハル）64 歳 ▽岡野敬（ポチ）76 歳 ▽藤原（フジ）51 歳 ▽江口剛志（センジ）60 歳 ▽澁谷宣夫（シブヤ）77 歳 ▽吉野康男（ケイ）66 歳 ▽若谷新一（シン）75 歳——の 8 柱です。根岸宏昭住職ら 3 人のご導師により 8 人の御霊は天国に導かれ、栗原センター長も安堵した様子でした。

世間の理解が届きにくい依存症という困難な病気と、高齢化などにより潮騒が“終の棲家”となる仲間達が増えるなか、潮騒で亡くなった仲間たちは施設葬を済ませても諸事情から家族や親族の元に御霊が帰れず、遺骨は引き取り手がないまま潮騒アディクションビレッジ会館内に仮安置されていました。このため行き場のない仲間たちが、地元地域で安心安全に暮らせる新たなコミュニティ「潮騒アディクションビレッジ（依存症村）構想」プロジェクトの終着点として、死後も仲間達の魂を慰安する潮騒の専用墓地の確保が待たれていました。

このほど地蔵院檀家総代でもある支援者の増古四郎さんの尽力により、銚田市に近い高野山真言宗直系の鹿嶋山地蔵院に潮騒墓地の確保の見通しが立ち、同寺での追悼法要が実現しました。鹿嶋山地蔵院は約 10 年前に建立された新寺で、高野山での厳しい修行を経て検定試験に合格した根岸住職が赴任し活躍しています。色彩豊かな本堂の伽藍に荘厳な雰囲気漂うなか、この日は 8 人の遺骨が並べられ、根岸住職による読経を受けながら全員が順番に焼香を行いました。読経の後には、根岸住職から有難いご講話をいただくこともできました。法事後は隣り合う庫裏（くり）で、参列者がお斎（とき）を摂りながら亡き 8 人の思い出を語り合いました。

栗原センター長は「縁あって地蔵院の共同墓地内の数区画を潮騒の墓地用地として確保できる見通しが立ち、この盂蘭盆会（うらぼんえ）の期間中に合同慰霊祭を営むことができたので、これでやっと胸のつかえが取れた感じです。潮騒専用のお墓ができれば宗派や無宗教に関係なく、みんなを合祀して永代供養が可能となります。私が常々主張しているように依存症の仲間はみんな家族なので、死んでからもここでミーティングができるようになります。いずれは私もここに眠りたい」と語り、念願だった“宿題”をクリアした事で肩の荷を下ろしていました。

近藤さんを回復に導いた 「奥田弁護士」の偲ぶ会に参加



故・ロイ神父とともに、ダルクを創設した近藤恒夫さんを回復に導いた奥田保弁護士を偲ぶ会が7月8日、東京都新宿区の日本ダルク本部で開かれ、潮騒JTCから栗原豊センター長が参列して別れを惜しみました。奥田保先生はNPO 法人日本ダルク理事長、同法人アパリ監事など要職を務めていましたが、先頃逝去されました。享年78歳。

今から38年前、当時札幌地裁で裁判官だった奥田先生は、薬物事件で被告だった近藤さんが「もう二度とやりません」という反省を口にせず、「どうか私を実刑にして、刑務所にぶちこんでください」と無力を認めた最終陳述に心を動かされ、執行猶予判決を言い渡しました。以後は、回復の道を歩む近藤さんを傍らで支え、ダルクを物心両面で支援しました。

偲ぶ会の最後に挨拶した近藤さんは、奥田弁護士との出会いなどエピソードを話し、第1回NAセミナーに参加してくれた奥田弁護士が「胸に判事の辞表を秘めていた」事を、後に本人から打ち明けられたと語りました。ダルクスタート時から共に歩んだ故ロイ神父に加え、奥田先生も喪失した大きさに「本当に寂しいです」と涙を見せながらも、「これからもスピリチュアルコネクションを広げ続けよう」と参列者に訴え掛けていました。

当日は近藤さんをはじめ、ダルクの黎明期から奥田先生の助言やサポートを受けて施設を軌道に乗せてきた各ダルクの代表者、回復を続ける仲間達、また司法、医療、福祉などの幅広い分野から関係者が出席。祭壇に献花して思い出深いエピソードを語り合い、奥田先生がダルクの一人ひとりに託した想いの継承を誓い合いました。栗原センター長も「奥田先生の恩義に報いるためにも、大きな柱を失って憔悴する近藤さんを、今度は私達が支えていきたい」と語り、奥田先生の偉業を偲びました。(潮)

今年も筑波大医学生が 社会医学実習で来所



潮騒JTCは6月21日、昨年に続いて潮来保健所を通して筑波大学医学群の社会医学実習先選ばれ、6名の同大医学生が研修で来所されました。午前中は栗原センター長の講話と入寮者のミーティングの様子を見学、潮騒食堂「おらげのかまど」で昼食をとってもらい、午後は施設や農場の見学と依存症を取り巻く現状・農業への取り組み・依存症者の高齢化・医療の現場から見た依存症—などについて、それぞれの担当者が発表しました。

一行は熱心に潮騒の当事者活動について聴講され、依存症について理解を深めていました。その後の懇談では、「依存症の方は消極的なイメージを持っていたが、みなさんの元気な挨拶や食堂で働く姿は明るく積極的で意外だった」という率直な感想が聞かれました。また、治療者と被治療者という立場の違いが前提の医療機関にはない、グループミーティングでの「言いつ放し聞きつ放し」のルールに関心を持たれていました。当事者活動の平等性や匿名性など歴史的な背景に思いを馳せ、新鮮な印象を持たれた様子でした。

学生の皆さんは、これから自身の専門分野を決めていかなければならない時期になっていくそうですが、現状では学生の間で精神科医を目指す者は少ないようです。この実習体験が依存症治療に取り組む精神科医を志すきっかけになればと切に願います。(スタッフ、タチ)





潮騒JTC夏の風物詩「真夏のバーベキュー (BBQ) 交流イベント」が8月11日、鹿嶋市宮津台の下津施設 (NPO 法人本部) 駐車場を会場に行われ、食欲旺盛な仲間達の胃袋を満たしました。各ナイトの入寮者や施設職員、高齢者介護デイサービス百寿、おらげのかまどメンバー、一部支援者ら総勢 200 人を超える関係者が参加し、BBQ を通して親睦と交流を図りました。今年は命に関わるような記録的な猛暑とあって、事前のスタッフ会議では高齢者の多い現状などを考慮して中止も検討されましたが、真夏の恒例イベントであるBBQを待ち望む入寮者が圧倒的に多いことから暑さ対策や健康面に配慮して取り組まれ、入寮者達からは「お腹がいっぱいになり、十分に楽しめた」「出所して何年かぶりにスイカを食べられて嬉しかった」との感想が聞かれました。

既に手慣れた取り組みとはいえ、今年も農業隊やスタッフメンバーらが熱心に準備を進め、たくさんの肉や潮騒農場で収穫した新鮮野菜が用意されました。前年のBBQ イベントでは、肉が焼けると列をなした様子が「ホームレスの炊き出し場を想起させて周囲にいい印象を与えないのでは?」といった懸念から、今年は班編成として班毎に責任を持って取り組めるよう、各班にドラム缶式バーベキューコンロを用意しました。さらに酷暑を避ける簡易テント 10 張りを設営し、できるだけ日陰で食べられ

る環境にしました。食材では、いつもの焼きそばではなく夏向きに冷やしそうめん作りに初挑戦し、支援者からは食後のデザートにとスイカ 8 個が提供され、いずれも好評でした。

BBQ 交流イベント (前年は室内での「夏祭り交流会」) は、これまで海プログラムとして海水浴とセットで組み込まれてきましたが、高齢者らは体力的についていくのが難しく、この日もデイケアの若手メンバー 7、8 人が午後から近くの浜辺に出て海水浴やサーフィンなどを楽しんでいました。今年は随時、天候をみて海プログラムが組まれています。この日は、女性ハウス「るみの家」でも独自に夕刻から BBQ 交流イベントが開かれ、大いに盛り上がりました。

真夏のBBQ イベントは入寮者にとっても好評ですが、一方で課題も浮き彫りになりました。農業隊リーダーのヒトシさんは「200人以上が参加する現状では、下津駐車場での実施は、もはや限界。来年はどこか別な会場を探さないといけないだろう。班編成はいいとして、スムーズな進行だけでなく事故やトラブル防止のためにも指令系統を徹底させたい。準備に追われて農業隊メンバーやスタッフが楽しめない現状も変えないといけない。暑さを避けるなら女性ハウスのように夕方実施も現実的だろう」と指摘していました。(潮)

女性ハウス「るみの家」

先月の

「潮騒人間塾」感想文

前号で報じた潮騒人間塾（7月12日、鹿嶋商工会議所会館）についての感想文を以下、掲載します一。

ピノコ 感想文

私の家族が思っている事をズバツと言ってくれた

淳子さんは中学時代の弁論大会でも同じ「生きる」をテーマにしたと聞き、時空を越えた不思議を感じました。負の感情を持たない、自分が行動することで状況も変わっていく、とても強い意志を持つ方だなと思いました。私には子供がいませんが、淳子さんの子供から見て、お母さんの子に産まれてよかったと思う自分になりたいと聞いたとき、それだけ愛情がたくさんある言葉を仲間達の前で言えるんだから、お子さんはきっとそう思っていますよ。

私は逆に薬物依存症になり天国にいる母をどれだけ泣かせたかわかりません。親不孝者です。まさか母は自分の産んだ子が薬物依存症になるとは思ってもなかったことでしょう。私のなかでは母が亡くなった53歳の時点での顔しか知りません。淳子さんの言った「今日打たない自分でいてください」という言葉、まさに私の家族が思っていることをズバツと言ってくれました。父・母・兄の顔が浮かびました。その言葉を忘れず、依存症の回復するために日々自分を変えるプログラムを一生懸命頑張っています。「努力に勝るものはなし」の言葉があるように、私も一日一日を大切に生きていきます。そして家族から「変わったね」と言われる私になりたいです。とても感動的なお話をありがとうございました。(ピノコ)

いるか 感想文

私の最初の結婚生活とダブらせながら話を聞いた

センター長の娘さん、淳子さんのお話を私の最初の結婚生活とダブらせながら聞いていました。淳子さんは「何でもお母さんは泣いているんだろう、そんなお母さんが嫌だった」と話しました。私も旦那さんと結婚したときは、極道の人と分かって結婚して、それがカッコイイとさえ思っていたのに、子供が生まれてから私の気持ちはどんどん変わっていき「極道から足を洗って欲しい」と何度も話し合ったのですが、結局分かってもらえず離婚しました。淳子さんは間違った道にそれぞ真つすぐに育って良かったと思いました。ウチの娘は横道にそれてグレてしまい、17歳で子どもを産んでいます。私は生活するなか

でいろんな思いもありましたけど、淳子さんみたいにいつか子供達に会える日がくると信じています。淳子さん、これからも良い親子関係でいてください。「今日は飲まないでください。今日は使わないでください」という素敵な言葉をありがとうございました。(いるか)

あきら 感想文

大切な旦那を亡くし同じ痛みを感じることができた

今回「生きる」をテーマに、淳子さんから生まれた時からメッセージを聞かせて頂きました。私もミーティングで「生きる」について話す事があります。極道の娘に生まれて、自分は違う生き方をしていたと思うこと、あまり記憶がなく分からない過去でした。私には子供が2人います。子供は親を選ぶことができないと言われましたが、私は2人の人生をめちゃくちゃにしまい、謝っても謝り切れないくらい心に深い傷を負わせてしまいました。私は子供達の幸せなど、これっぽっちも考えてない親だったと、深く反省させられました。「今日、そして今クスリを使わないで下さい」といった言葉に思わず涙してしまいました。淳子さんの旦那様のお話では、私も大切な旦那を亡くし同じ痛みを感じることができました。過去の自分を忘れてはいけないけれども、私はここ潮騒・るみの家で生き続けます。そして子供に対する「愛」が持てるよう努力します。(あきら)

みく 感想文

命ある限り生きて埋め合わせすることを心に誓った

淳子さんは「生きる」をテーマに自分の生い立ちから現在に至るまで正直に話してくださいました。自分を重ね合わせて思ったことが、淳子さんは真面目な道を思春期のとき選んだこと、私は不良の道を選んだこと、そこには私の居場所があったからです。十人十色、人それぞれ考え方も違うし、とらえ方も違うと思います。でも家族を思う気持ちは、どんな人間であれ必ずあると思います。淳子さんはご主人を亡くされて、でもたった10ヶ月前なのに気丈に振舞っていて、強い人だと思いました。

そして何より思ったのが、「父を恨んでいない」と語ったときです。父(栗原センター長)の仕事のサポートをしようとして歩み寄っているんだな、と感じました。私も家族を苦しめ、傷つけて、死のうと思ったことがありました。でも今、私がしなくてはならないことは、命ある限り生きて娘と孫、主人に埋め合わせを一生し続けたいといけなと心に誓いました。センター長と淳子さんの関係も大変素晴らしいと思います。勉強になりました。(みく)

がーちゃんの 極私的懺悔録 「他人事だと思って…」

その
6

エルヴィス・プレスリー、
トコロテン、
マイケル・ジャクソンの
幻覚に苦しむ

【PRめいた著者プロフィール】

◆ アノニマスネーム「ガーゴイル」(36歳/男性) ◆ 出身：北関東の田舎町 ◆ 前職：元詐欺師(自称)のような仕事&元介護福祉士
◆ 病歴：鬱病・発達障害・自閉症・各種依存症(薬物・アルコール・女性・対人関係 ets)



(前回からの続き) 酷暑の夏が到来し、ゴミ溜めと化した部屋はジメジメしてエアコンがなければ気が狂いそうだった。私は意地でも涼風を味わってやるとばかりにリモコンのスイッチを入れた。「ブヤーん」「ブヤーん」と深い音をたてながらエアコンが起動。しかし、ちっとも涼しくならない。おまけに謎の黒い粒子が部屋中に舞い散り、それがカビの塊だと分かった瞬間、私は「あひゃーん」と叫び声を上げ、部屋から逃げ出した。私はカッターシャツとバドワイザー、猿股をはき近所のホームセンターに行った。そして「エアコンのフィルターを外さなくてもとっても綺麗」と書かれたエアコン用クリーナーを5本買い、「ふっふっふー、これからお前らを皆殺しだ!」と呟き、部屋に直行。我が部屋の腐れエアコンにクリーナーをぶっ放した。効果は抜群。エアコンからは黒い液体と、泥つとした謎の黒ずみが取れていく。

だがしかし、しばらくすると顔の辺りにポタポタと何か降っている。目を覚ますとカビだった。「うわっー、何なんだ!」。まるでカビの復讐に遭遇したかのように、私は恐怖でパニックに陥った。思わず飛び上がった瞬間、しこたまエアコンに頭を強打した。黒カビの塊を頭から被ったのである。それ以来、あの部屋は使っていない…。

親戚が持参した初盆の香典も すべて酒代に消えて

でも、この夏は「命に係わる」記録的な暑さだ。ひたすら卑屈な「忍従の思想」だけで家に引きこもる生活

が、私の心身に悪影響を及ぼさないわけがない。日増しに体調が悪くなっていき、頭のなかでは小人たちが池のほとりでポルカをクルクル回っていて、私はそれを吹き飛ばすべく、もはや際限なくウイスキーをぐくぐく飲むようになっていた。

そうして8月も半ば近くなり、お盆の時期に。私は立て続けに肉親三人を亡くしていたので、初盆の法要をしなければならなかった。でも、色々面倒くさそうなので、線香だけ二本たてたのみで終わらしてしまった。少ないとはいえ香典を持ってきた親戚たちを、「ありがとさん」の一言で香典だけ奪い取り、追い返した。その香典も酒代に消えてしまったので、罰当たりなことこの上ない。私は完全に正気を失っており、酒を飲んで布団の中でブルブルと体が振るえる毎日だった。

発端は一週間前のことだった。朝起きると目の前にキング・オブ・ロックンロール、あのエルヴィス・プレスリーが立っていたのだ。しかも、私の前で「ラブミーテンダー」を熱唱して何処かに消えたのである。いつから私のうちはグレイスランドになったのだろうか? そう思っていたのも束の間、今度は電気コンセントからトコロテンが流れ出したのだ。腹が減っていた私は急いで台所に行って酢醤油をつくり、お椀にそれを注いで、ちゅるちゅると手繰って食べた。まったく美味くない上に、いくら食べても溢れ出てくる。その度に私は台所で酢醤油を作るのだが、とても間に合わない。食い過ぎて、腹具合もおかしくなってきた。「こりゃアカン腹が痛い」と叫んだところで、何事もなくトコロテンは消滅し

たのだった。

恐ろしくなった私は部屋にある鍵をすべて針金で固定し、エルヴィスが入って来られないようにし、電気コンセントはすべてガムテープで塞いだ。「これでひと安心。さあ香典で買った大吟醸でも飲んでこましたろ」とまた台所に行くと、今度はなんとキング・オブ・ポップ、あのマイケル・ジャクソンが鍋焼うどんを持って立っていたのである。マイケルは「カモン、エブリワン!」と叫ぶと高速のムーンウォークで鍋焼うどんを私にぶちまけようと急接近。ごっつい恐怖を感じた私は、「ぼおおおおお」と叫びながら部屋に後退し、鍵を嚴重にしめて布団を引っ被りガタガタ震えたのだった。

お気に入りキャバ嬢との予定があり 8月入院は避けたい

さすがの私も「これはヤバイ。ぶっ壊れかけている!」と叫んだ。そう、医師に断りなく勝手に断薬し、あろうことか毎日アルコールを浴びるように飲んでいる私の脳みそは、完全に崩壊してしまっていたのである。こうなっては仕方ねえ、近隣にある精神病院に入院し、投薬治療を受けるしかあるまい。こうみえてアタシは精神病院入院のバイオニアである、今回三回目の入院に当たり、どうやって看護婦さんを手込めにしようか? そんな楽しい妄想を布団のなかでしていると、ある重要なことを思い出したのだ。

そうだ、8月は行きつけのキャバクラ「キャンティ」のホステス、三咲ちゃんのバースデーイベントでドン・ペリニオンを入れる約束をしてたっけ。その後、池袋の東武百貨店で高級ブランド「Chloe」のバッグを購入して彼女にプレゼントし、その夜は三咲ちゃんとホテルで一発キメる、という大事な予定があったのだ。なので、できれば8月の入院は避けたい。なんとしても避けたい。

あれこれ私案するうちに、我が壊れた頭も少しずつ冷静さを取り戻して少しは正常な機能に戻り掛けている。そこで、エルヴィスもトコロテンもマイケルもどこから現れるのか、考えてみた。エルヴィスは1977年にドーナツの食い過ぎで死んだし、マイケル・ジャクソンは少年にいたずらし過ぎてこの前死んだ。トコロテンに関してはどっかの、てんぐさ業者の陰謀かもしれぬ。

まあ、私の聡明な頭脳をもってすればマイコー、エルヴィス、トコロテンは完全に幻覚であることは分かるのだが、こう一週間ぶっ通しで「ぼーう」や「サンキュー・ソーマッチ」なんてやられると「何て言うのかなあ、嫌だなあ、怖いなあ」などと稲川淳二の物真似をして怖が

ることすら面倒で、はっきり言ってウザいのだ。

後々自宅をコンサート会場に改装してエルヴィスやマイコーに出演してもらって、お客を呼んでワンドリンクプラス・トコロテンのセットを会場で売り出せば売り上げはガンガン上がるし、エルヴィスもマイコーもトコロテンも私の脳みそが産み出した幻なので、ギャラも材料費もただ。利益はグングン上がり、将来的に「ギブアップランド」という疲れたおっさん、四十路のホステス、シンナー中毒の少年…がウロウロするテーマパークを造れるくらいに金持ちになれるかもしれない。

最初の病院での見立てはなんと 「栄養失調」だった

だから、なんとしても精神病院に入院するのは避けたいのだが、慢性的な頭痛、肩凝り、霞目、悪寒、震え、吐き気、下痢、それに伴う痔疾、強烈な口臭、歯槽膿漏、幻覚、幻聴。そして息をするのも面倒くせえ程の生きる気力の低下が、アルコールの過剰摂取と無謀な断薬によって私の体を蝕んでいる。最近では脳みその中枢も狂いつつあるのか、過食嘔吐の症状も出てきた。

こうなると体の衰弱が激しく、台所がゲロによって焼けただれてしまい、ますます食欲が失せる。そこにカンカンのウォッカ、ホイスキーを流し込むので荒れ果てた胃袋、食道をさらにアルコールで爆撃する。その上あぶらっこいデリバリーピッツァをバカみたいに食べるので、完全に食べられる量のキャパシティーをオーバーし、盛大に便所で土下座するのである。

この前、酒の飲み過ぎで入院した時はこの状態で半年ほど頑張ったのだが、やはり栄養は体に良いらしくケトン体の血中濃度が孫悟空くらいの戦闘力になってしまい、飽食の国において恥ずべきことだが、最初の病院での見立ては「栄養失調」だった。情けない馬鹿者である、私は、俺は、小生は…。

ただこの過食嘔吐が出てきたということは、現在のラビアンローズライフ(酒と薔薇の日々)がゆっくりとだが加速度がつき、医療関係に向けて入院への道を確実に歩んでいる。やるかやらぬか、伸るか反るかは自分で決めねばならぬ。このままエルヴィスとマイケルとトコロテンと共に朽ちていくのもいいかもしれないが、まだ行った事のない性風俗やギリギリのスマートホンを使った買春行為、あとはなんといっても三咲ちゃんと一発キメる事を考えると、「こんなところで死ねないぞ!」という思いが、私の空虚な頭の中で渦巻いた。

(以下次号に続く)

受刑者からの手紙

刑務所も栗原センター長が務めた頃とは様変わり

前略。やばい暑さですね。私には10年ぶり3度目の当刑務所ですが、栗原センター長が務めたころとは様変わりです。扇風機が居室についていて、午前4時までノーストップ強です。女性の担当さんがいて、工場、居室ともなにか変です。部長、区長、主任も女性、今はタオルを濡らして当てたり、髪(頭)に水をつけて良しです。午後5～8時までいつでも何度でも、です。水が安いので。逆に困るのが報奨金が使えないので、残金が僅かな私はなににも買えません。腋臭で独居に行きますが、わきの下の悪臭でシャツ欲しいです。私本の貸し借り禁止なので、隣で車や食べ物の雑誌うらやましいです。

私には"今日一日"も大事ですが、常々5年先はどうだろうと考えてから、現在の生き方や方向性を決めています。将棋でもその考えあつてか、22戦17勝5敗と工場内2位です。作業では今は役付きはなく、今後なにかしらにつくと思いますが、なかで経理、立ち役に選ばれし者はほとんどの人間がダルクや施設ではキャラが強すぎて、ボンコツで即退寮やトラブルをやらかします。俺はダルクも刑務所も長く、どちらもメリット、デメリットもよく分かります。ダルクの悪行を見て嫌いになった者もいて、いつわりのオールドタイムにも切れています。だから、潮騒で3年間研修して、その後はどこかで私が代表としてやれるならと考え、栗原センター長を選びました。私はそのくらいの立場につかないとスタッフや係者では5年先また務所ですよ。センター長がダメならTMさんに考えを伝えて、とも思いました。センター長とあつて話したかったのはその辺で、他の者とは違うのは本気なんです。生き方変えたくて…。色々なものから逃げて生きることよりもここで立ち止まって、すべて受け止めて解決して生きる人生を送りたいんです。人を沢山助けたら、その分俺自身が助かっていくと思うんです。確かに200人近くの暴走族のリーダーをやっていたとき、シャブやシンナーをやる者を力任せで止めてきたけど、俺自身一度も薬物に手を出しませんでしたから。

「どっこい生きてます」を穴が開くほど読んでいます。文芸コンクールに絵を出したいのですが、道具が買えず参加できません。今3時ですが、めちゃめちゃ暑いっす。日用品、切手等が買えず、返事がしばらく送れませんが、くれぐれも身体に気を付けてお過ごしください。
(東京都 Y・S)

独房の各部屋に扇風機が入り24時間使用が可能に

連日35℃を越す、うだるような暑さの毎日ですがセンター長お変わりありませんか。当方もテレビなどで命に係わる暑さで熱中症にならないようにならないよう、上の方から通達の続く毎日です。台風の直撃を受けましたが、それでも久しぶりの雨で一息ついてます。刑務所の方もセンター長の時代とは変わり、それぞれの独房の部屋に扇風機が入りました。使用は独房から帰房以外24時間使用することができます。

私の工場は70名程おりますが全員初犯の工場です。今も1人扇風機にあたりながら手紙を書いています。刑務所も今昔の感があります。仕事中は毎日午後2時に冷やしレモン水を食器一杯飲ませてくれます。もっとも熱中症対策のようです。来信を開けてみたら昨年の8月の3日にセンター長からの暑中見舞いのハガキが出てきました。もうあれから一年が経ったのだな、あと一年で帰れるのだなと心ときめいております。

先日はシゲさんからクリーンな生活も3年になった、とありました。日々回復を目指して頑張っているとのこと、自分自身でも驚いているとのこと、酒を断って3年を奇跡だを書いてきていました。これからもお互いに頑張ろうと書いてありました。感謝しているとセンター長からもお伝え下さい。どうかこの暑さに負けることなく、各々日々お元気で活躍ありますよう心から祈念します。
(兵庫県 S・Y)

大袈裟ではなく、命を危険にさらすような今年の酷暑だけに、受刑者の皆さんも相当体に堪えたのではないかと推察します。扇風機の導入などが報告されますが、矯正施設は忍耐力を養う場なのかと半量を入れたくなります。罪を償うにしても、まずは命が第一です。どうか健康に留意して頑張ってください。

残された人生を少しでも学習できる人間になりたい

厳しい暑さが続きます。今年の台風では西日本を中心に甚大な被害が出たようですね。茨城県の方は大丈夫だったですか？ 潮騒には被害とか出ていませんか。刑務所に入っていると、社会でどんなことが起ころうと全て「対岸の火事」なので、自己の身をおいては何一つ心配することもなく生活できています。でも見方を変えれば、同じ日本に住んでいて「俺は何やっているんだろう」と思われます。思うばかりで学習能力のない私ですけど…。これから残された人生を少しでも学習できる人間にならなければ!! そう思っています。

毎日毎日、本当に暑いです。昨夜は暑さで布団の上に寝ているのさえ苦痛を感じるほどで、何度も目覚めてはため息をついて、つきながら朝を迎えました。扇風機は部屋に回っているのですが、なまぬるい風ばかりがむなく舞っている感じです。海の日にはあんみつ豆が配られたのですが、一瞬でなくなりました。美味しかったですけれども、暑い夏でも長持ちする菓子が懲役には嬉しいものです。不思議なものです。部屋にいると食後には体拭きができます。皆暑さのため頭も水で冷やすこともできるので、何とかこの暑さに負けずに生活できています。くれぐれも熱中症にはお気をつけ下さい。

(東京都 K・K)

娘と孫達のことを心配なので潮騒への帰住はその後に

暑中お見舞い申し上げます。お陰様で入所時の体調で帰れる目途がつかしました。分類職員から「潮騒へ帰るの？」と訊かれましたので、潮騒は私にとって最後の場とと思っているのでお世話になるつもりでいる旨を伝えました。そして満期の言い渡しがありました。なので、迎えに来ていただき、直で鹿嶋へ帰る前にすべきことがあります。それは以前にもお伝えしました娘のことです。マンションからの投身事故後も夫の素行が改まらず離婚、統合失調症にまで追い込まれ、親権も奪われたこともあり、二度の服毒自殺(未遂)音信も途絶え、知人の知らせにより覚醒剤で逮捕、今日まで公判結果の連絡もなく、やきもき状態の日々です。なので、先ず一番に娘の安否を確認したいのです。満期になったので引受人など不要といった考えはなく、万が一の際は娘ともども潮騒の一員になれたら悩みも多少緩和されるのかな、と思うときがありました。

「出所の際には満期でも迎えに行きます」と、私などには勿体ない回答を頂きましたが、その必要はなくなりました。その訳は私が荷物などを預けている管理人から手紙が届き、荷物の引き渡しの際に食事会の用意をしているからとの状況も考えてのことですが、何より娘と孫達のことを心配であるためです。これらを済ませずに鹿島の住人となつては絶対後悔すると思いますので…、幸か不幸か私の出所日は土曜日とあり、役所も休庁なのでこの間に身辺整理をしたいと思っています。勝手な願いで申し訳ありませんが、私の我がままをお聞き入れくださいませんか？ 誰でもなく私自身のことなので将来何処を居場所にすれば良いのかは考えております。

私も人の親、子を思う気持ちはセンター長と同様です。そして、恩は恩としてセンター長へのリスペクトと感謝の思いは忘れ去ることはありません。出所後まずは本部の方へ一報入れた上で指示を尊重するよう考えてますので…。くどくど書いて参りましたが、伝えておかなければならないことは、①知人が迎えに来てくれるので潮騒からの出迎えは無用であること②2、3日の猶予をいただきたいこと——です。用事が済み次第デイケア館へ訪問することを約束しますので、これまでの間お世話になりましたとか、有難うございますの言葉は言いません。栗原センター長と話し合える日を楽しみに、また、代筆を務めていただいたシゲさんへのお礼を言えることも同様です。この度は身勝手な願いで申し訳ありません。

(神奈川県 O・T)

しおさい、俳壇

8月のお題

盆

選者 桐本石見

人生は60歳からでもやり直せる! No.55

センター長 栗原 豊

ミーティングで自分を成長させ「生きる楽しさ」を実感する

私は開設間もない千葉ダルクで苦手意識の強かったミーティング中心の生活にも順応するようになり、年の離れた若い仲間達との共同生活にも親しみを覚えてきた。夜間に近くの教会などを会場に利用して開かれる、薬物依存症者の自助グループ(NA)ミーティングには、施設(ダルク)ミーティングとは異なる趣を感じるようになっていた。ほとんど刑務所しか知らない社会体験の乏しい私が当初、このNAに抱いたイメージは、あたかも異端の信仰を持つ者同士による夜間の秘密集会のような感じだったが、通い続けるうちに緩やかで自由度のある貴重な夜間の居場所に思えるようになった。

本来は施設外の人々に広く門戸を開いているのだが、ほぼダルク・メンバーが顔を突き合わせた。でも、教会の一種独特な霊的で荘厳な雰囲気も手伝って、より自分に正直になれるように思えた。毎朝ダルク内で行われるミーティングでは半ば話すことが義務付けられていたが、夜間のNAミーティングでは話さないことも許された。当時、私は感情にムラがあり、起伏の激しいマイナス感情をどう克服するか、回復に向けて前提となる課題だった。なのでNAミーティングは冷静に自分を見つめることに役立ち、自分を成長させてくれたと思っている。施設を運営する立場となった今でも、通常は夜間高校への通学で難しいが、休みのときなどには時間がある限りNAミーティングに足を運んでいる。

千葉ダルクも他のダルクと同様に毎朝、昼食や飲み物、タバコ代として一日、千数百円の現金が手渡された。当時の私は、ここで渡される以外の金銭は持ち合わせていなかった。過去の任侠道人生では、2千円以下の現金を「カネ」として意識することがほとんどなかった。クスリの売買もそうだが、いかに大金を稼ぎ一気に使うか、それが任侠道に生きる者のカネの使い道だった。しかしダルクでは2千円以下で、いかに安くて良いものを買うか、安価で美味しい食べ物を見つけるかに腐心した。こうした庶民感覚による「生活の知恵」が、いかに大事かを体験を通して学んだ。以前の自分だったら、とても信じられない光景だった。自分を律するような限定的なダルクでの生活は、一見貧しい者達のライフスタイルに見えても、依存症の回復というフィルターを通せば、とても豊かなものだった。こうして私は金銭管理が回復人生の潤滑油の役割をしていることに気づかされ、生きる楽しさをもたらしてくれた。改めて自分には、限られた生活のなかで日々を楽しめる側面があった、ということに気づかされたのだ。 (次号に続く) ※都合により、これまでの「わが俳句の歩み」から「人生は60歳からでもやり直せる」にタイトルを変更します。

亡き母の

面影宿る盆の月

れいこ

月は四季に見れますが、山や川、海や街、また夕方、宵、夜更けと時間を変えて趣があります。ことに盆頃の月は少し淡く儂(はかな)く見えるので、故郷や亡母などを偲びます。齢を重ねて心に沁みる句です。

特選句

盆の月

母の最期の窓辺かな

あへ

御母堂は自宅療養中に亡くなったのか、病院かも。今年も盆を迎えて窓辺に月が見える、その窓辺に母の病床もあったので懐かしい。私にも、「カーテンを開けて月夜を病者へも」があり、亡妻を偲ぶ句でもあります。

特選句

死の艦となりしも運命盆の月

ゆたか

死の艦は、例えば戦艦大和や武蔵を思います、大和は昭和二十年四月七日に坊ノ岬沖で撃沈され、三千三百余名のうち三千余名が戦死したと言われる。今も昔も風水害や地震、飛行機、列車、船の事故は絶えない。あの飛行に乗った故に墜落したり、先祖代々住んだ家が地震や洪水に遭う。人の生死運命は計り難い、盆の月に戦死の父や我が人生を顧みるしみじみした句です。

特選句

今月の秀逸句

浜風に

をりをり涼む

盆踊り

くま

盆踊りは死者を弔うもので、平安時代空也上人の踊念仏から念仏踊りとなり、農村などの娯楽にもなった。そのうち風俗も乱れたので、明治の頃は取り締まりもあり縮小したが、大正の頃また盛んになった。唄は小原盆唄など地方のが風情もあり、浜風に涼みながらの踊りも故郷を思う句です。

揃いたる

親戚一同

盆休み

イサ

都会ではあまり無いことかも知れないが、田舎では盆や正月に本家などに集まり、先祖の墓参や食事会などした。今でも盆の帰省で渋滞になるがこれも懐かしく、年末なら、「上野発の夜行」の歌謡を思う句です。

盆踊り

浴衣姿の

二人かな

マサル

盆踊りは仏教の行事でもあったが、次第に娯楽化し、男女の出逢いの場にもなった。浴衣姿の女性は普段より格別に綺麗にも見えて、少し暗がりの二人に恋も思う句です。

お盆です

故郷に帰る

いろは坂

なん

日光いろは坂は馬返しから中禅寺湖までの約十六キロで、曲りがいろはの四十八あるのでこのこの名があり、一九五四年に国道120号線として開通した。作者は日光の出身なのか、金精峠を越えると片品村などあるが、冬季は閉鎖される。紅葉の頃は大渋滞する。

恋人の

名前も忘る

盆の月

ミチ

初恋の人かも、既に亡くなったのかも。盆の月を眺めながら昔を顧みる。歳を重ねて長い間会わないと顔も名も忘れる、何年前に小学校の同窓会に出席したが、ほとんど名前が分らなかった。盆の月にしみじみした句です。

孫の顔

見せに里への

盆休み

こば

老いた者には孫の顔を見るのが何よりの楽しみ、遠路に渋滞の中の帰省も難儀だがそれも親孝行の一つ。私も若い頃は東名、名神、中国道を帰省したのが懐かしい句です。

佳作

長旅に戻りて里の盆踊り	ナン	亡き親を迎えるお盆涙せむ	しの
馳せも来よ胡瓜の馬に迎え盆	めい	涙して先祖の供養盆の墓	よつちゃん
新盆や思い出の物捨てられず	みく	古里にみな揃うや盆休み	チャコ
恋人と初盆踊り楽しいな	メーテル	盆踊り櫓太鼓の音響き	ヒロ
待ち侘びる母の御霊や迎え盆	ピノコ	父母に会いたし会いたし盆の月	ミチ
盆近し母の帰りを今日も待つ	あきら	まどかまどかりの思い出盆の月	ゆたか
盆なればりんに母呼ぶ夕べかな	しま		

どっこい

私も生きてます～我が回復記～「アル中のシゲ回復記」

第2回

1年間に身内が3人も死んで酒しか信じられなくなる

アル中のシゲです。連載の第2回です。前回にも述べましたが、私は潮騒では広報の仕事を担当し、主に受刑者のみなさんとの文通を通してコミュニケーションを図っています。私は5年ほど前に東京のM病院で「アルコール依存症」と診断されました。今回、巡り合わせで回復ストーリーを書くことになったので、私のアルコールに対しての生き様を書かせていただきます。私は高校、専門学校を卒業して社会人となり、人並みに会社勤めをして平凡な暮らしをしていました。会社が終われば、仕事仲間と居酒屋に行って飲み、自宅に帰って家族と食事をして、また明日のために睡眠を取る、ごくありふれた日常生活を送っていました。

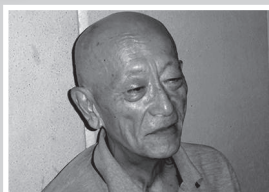
私は27歳のときに縁あって22歳の女性と結婚し、都内のマンションで新婚生活をスタートさせました。当時、私は都内の害虫駆除の会社で一生懸命に働いていました。仕事は白アリなどを駆除する一方、営業マンとしてもトップの成績を出していたので、給料は月100万円を超える時もありました。仕事が終わると毎晩、同僚らと居酒屋やスナックをハシゴし、帰宅すると今度は新妻と晩酌。彼女もお酒が好きだったので、和気あいあいと二人酒を楽しみ毎日でした。休みの日も、夕方になると妻と居酒屋に繰り出し、焼き鳥を食べながらチューハイを飲んで、その勢いでカラオケスナックに。二人とも歌が好きだったのでよくデュエットして楽しんでいました。とても楽しいお酒で、まさに生活の潤滑油でした。仕事も順調で夫婦生活も他がうらやまほどの仲の良い関係でした。

しかし、好いことというのは長くは続かないものです。妻が25歳になったとき、予期せぬことに健康診断で子宮がんが見つかりました。全摘手術を受けましたが、がんは進行が早く肺に転移し、最愛の妻は26歳で天国に旅立ってしまいました。不幸は続き、私の父もガンが転移して62歳で亡くなりました。さらに父が他界して2カ月後、子供のころから私を可愛がってくれた叔父(母の兄)が、事故死してしまいました。叔父は、あの海上自衛隊の潜水艦「なだしお」と衝突して沈没した、釣り船「第一富士丸」に折悪しく乗船しており、3番目に救出されましたが、不幸にも命を落としました。

1年の間に身内の不幸が3回も続き、この世には神も仏もないものなのか、とつくづく思い知らされました。このころからお酒の量が増えていき、仕事も休みがちになりました。心の空白を埋めるのはお酒だけになり、もはや私が信じられるのはお酒しかありませんでした。私は自分自身さえも信じられなくなっていたのです…。(次号に続く)

8月のバースデー

ゆき



がんばります。

よこ

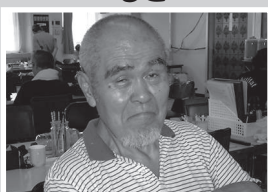


今日一日

せいじ

ありがとう。
がんばります。

もと



命つきるまで

INFORMATION

今年の「潮騒ジョブトレーニングセンター13周年フォーラム」は12月2日(日)午前10時～午後4時、例年通り鹿嶋勤労文化会館(茨城県鹿嶋市宮中325-1、電話 0299-83-5911)で開催します。テーマは「潮騒ミュージックステーション～歌と踊りで回復の魂を揺さぶろう!」です。

これまで潮騒フォーラムは、主にダルク関係者やその周辺の人達の協力で盛り上げてきましたが、ともすると仲間内の枠を超えられない限界がありました。今年は少しいメージを変えて、地元市民の参加を促すために外部支援によるチャリティー歌謡ステージをメイン企画に加えます。

舞台上に立つプロの歌い手と市民(歌謡ファン)に向け、依存症への理解を訴えます。今年も従来から人気の潮騒&首都圏ダルクの連合エイサーの仲間達が会場ホールで弾けます。このほか潮騒ミュージックア・プログラムの再現、ゲストスピーカーのメッセージ、仲間や家族の話など多彩な内容で構成します。乞う、ご期待!

8月の行事

- 8月3日 大和ハウジング納涼祭
 8月9日 潮騒俳句会
 8月11日 潮騒暑気払いバーベキュー交流会
 8月12-19日 秋元病院メッセージ
 8月22日 デイサービス百寿祭り
 8月24日 潮騒人間塾(講師・城間勇さん)
 ※城間さんはリカバリーパレード東京実行委員長

9月の行事予定

- 9月8日 潮騒人間塾(講師・坪倉洋一さん)
 ※坪倉さん(トム)は渋谷ダルク代表
 9月9・15日 秋元病院メッセージ
 9月13日 潮騒俳句会
 9月15-16日 第9回かみす舞つちやげ祭り2018
 (神栖中央公園)
 9月23日 第9回リカバリー・パレード
 「回復の祭典」in 東京
 (集合・新宿中央公園、パレードコース・新宿駅周辺)
 9月23日 潮騒家族会
 9月30日 潮騒アディクションセミナー

献金・献品を頂いた方 (8月15日現在)

- | | |
|--------------|-----------|
| ・内堀 高良 様 | ・堀江 三枝子 様 |
| ・松倉中央クリニック 様 | ・駒崎 初子 様 |
| ・萩大祐弁護士 様 | ・武藤 クニ子 様 |
| ・大谷 美香 様 | ・金子 眞佐江 様 |
| ・桐本 石見 様 | ・石綿 茂子 様 |
| ・潮騒家族会 様 | ・野本 俊子 様 |

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

依存症の回復に向けて大事な要素の一つに、パワーゲームから距離を置き、自由になる取り組みがある。依存症は別名、「関係の病」とされる。人間関係に対する過剰なめり込みが回復を難しくしている背景がある。もっとも依存症者に限らず、一般に他者との関係の取り方は難しい。身内であっても夫婦、親子、兄弟の間でも生の直接感情がぶつかり合うだけに厄介な場面もある。では、「正しい」人間関係とは何だろう？恐らく正解はないだろう。少し前までは人間が成長していく過程でいろんな人間関係に出会い、ぶつかり合うことで内面が鍛えられ、人間関係のあり方を経験として学んでいく流れがあった。しかし今は互いにぶつかり合いを嫌う傾向があり、「打たれ弱い」人間が増えているように思う。「ケータイとコンビニがあれば生きていける時代」という皮肉な見方もある。以前なら暴走族のように“群れる”ことで仲間同士が繋がったが、今はダルクや潮騒でも引きこもり時代を反映して、“群れる”ことを苦手とする若い人達が増えている。多くが、切ることが難しい処方薬依存ときているから、より問題は複雑なようだ。おまけに軽度の知的障害、発達障害、精神疾患などを併発し、もはや依存症単体が問題ではなくなっている。彼らは12ステップの理解もままならないだけに、パワーゲームに対する自覚を促すことは難しい。どんな社会集団であれ、いつの間にか個々の人間の役割というか、各ポジションみたいなものが自然にでき、違和感なく振舞うことになる。ここにパワーゲームが介在しなければ何ら問題はないが、パワーゲームの克服を目指すのはリハビリ施設といえども、残念ながら日々の現実理想通りには展開しない。社会と同じように、より力のある者が弱者を支配する構造が潜在しているからだ。でも、世間の価値観からすればマイナスにしか思えない局面が、リハビリ施設ではプラスに転じる逆説の可能性もある。それは、リハビリ施設にたどり着いた人たちの多くが、社会のパワーゲームで潰され続けてきたマイナス体験を共有しているからだ。例えばプログラムには乗れなくても、個々の入寮者が仲間の痛みに関心できる要素を理屈抜きに秘めている。僕はそれを「人間の自然力」と呼びたいが、これがあれば仲間との絆をより強固なものへと導くプラスのパワーとなるのではないのか？潮騒には病種病態や障害を超えた「人間の自然力」を引き出す不思議な力がある、と僕は信じている。(市)

潮騒通信 どっこい生きてます！ 2018年8月**Contents**

- P② 私達の原点は自助グループにある
 P③ マック発展に尽力したバーブさんへのレクイエム
 P④ お盆に地元寺で仲間8人を合同慰霊
 P⑤ ・近藤さんを回復に導いた「奥田保弁護士の偲ぶ会」に参加
 ・今年も筑波大医学生が社会医学実習で来所
 P⑥ 潮騒BBQ「旺盛な食欲を満たす」
 P⑦ 女性ハウス「るみの家」：先月の「潮騒人間塾」感想文
 P⑧ がーちゃんの極私的懺悔録 その6
 ～エルヴィス・プレスリー、トコロテン、マイケル・ジャクソンの幻覚に苦しむ
 P⑩ 受刑者からの手紙
 P⑫ しおさい俳壇 8月のお題「盆」
 P⑭ どっこい私も生きてます「アル中のシゲ回復記」／8月のパースデイ
 P⑮ 行事予定 / 編集後記 / 献金・献品 / 目次

**■編集・発行：**

特定非営利活動法人
 潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒アディクションビレッジ会館
 (潮騒アディクション・ケアセンター)
 〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4-4-5
TEL:0299-95-9991 FAX:0299-95-9992

Eメール k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

